

S.E.レヴィン 米国出身の元ユダヤ教徒（前半）

:

明:
ユダヤ教徒の女性が、ムスリムの夫とモスクの「妹」を通し、ムスリムの生活について を得ます
。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: S.E.レヴィン

日 4 Apr 2014

集日 14 Apr 2014



私と夫は、ある 演会に出席するため、マスジド（モスク）に行くことにしました。それは一年前に 婚して以来、初めての彼によるモスクへのさそいでした。私たちは、あるリハビリセンタ で 物乱用カウンセラ として共に いていたときに出会い、 婚しました
。

私たちは全く なる出自なため、当初はこれ以上ないという程に相 点ばかりが目立ちました。彼は 人で私は白人、彼はムスリムで私はユダヤ教徒でした。 婚前、彼は私が改宗することを求めませんでした、模 的な人格による、沈 のダアワ（布教）をしていました。

彼は ないスラム を えており、私は 好きなので彼の本を 山 んでいました。また私は彼の 虚な振る舞いや、彼が一日に5回行う礼 、 金曜日の合同礼 、 ラマダ ン月の断食などにも 接していました。それゆえ、私が彼の宗教に 味を惹かれていたのは自然な成り行きに よるものでした。

私たちがマスジドに着くと、彼は女性セクションの入り口を示しました。私たちは 演 会の 了 に で待ち合わせることにしました。暗くじめじめした廊下を通り、急な 段を降りながら私はこう思いました。「私には出来る。」

私は 去に、友 を作ることに困 を 出したことはありませんでした。私は常に多文化の状 を しむことが出来ましたし、その も しみにしていました。

夫は、その日は慎み深い服装をしてはどうかと提案していました。私は慎重に 袖のド レスを びました。私はマスジドの女性たちが自分の 貌を めてくれることに自信を抱き ました。

しかし、私が 下に着いて「妹」と かれたドアを けると、直ちに の りめた、疑念や 惑い の空 が み取れました。全てのベルをまとった が私の方を振り向き、ムスリムの女性た ちは、私に2つの があるかのように私を凝 していました。私は入り口で硬直したまま、 彼女らを凝 し返していました。

私は、それ程までに多くのムスリム女性が一ヶ所に集っているのを たことがありませ んでした。彼女らの大半は 的なヒジャ ブをまとっていましたが、2人の女性は 目以外の 全てが された覆いを身につけていました。数人は、肩にスカ フを羽 った形で座ってい ました。彼女らは私を ると、それを の上に被せました。

しかし、彼女らの一人が立ち上がり、私に近づいて来て自己 介し、バスイ マ 妹である と言いました。彼女には 迎的な表情がありました。

私は言いました。「こんにちは。私の名前はシャロンです。 演会を きにしました」

彼女は いました。「かとごー ですか？」

「夫は上にいます」

「まあ、旦那 はムスリムなのですか？」

「はい、そうです」

「アルハムドゥリッラ 。こっちに来て一 に座りましょう」

彼女は他に3人の女性が座っているテーブルに私を れていきました。彼女たちは たこともない程の美しさを持つエキゾチックな女性たちでした。彼女はその3人に私を 介してくれましたが、その すぐに彼女たちの名前を忘れてしまいました。彼女たちの名前も同様にエキゾチックなものでした。バスィ マ 妹は立ち上がり、 に来た人々に挨拶に行きました。

「あなたはどこの出身ですか？」と女性たちの一人が私に ねました。私は自分がニューヨーク出身の、 欧系アメリカ人であると言いました。

「あなたの旦那 はどこの出身なのですか？」

「アメリカ出身です」

「いや、どこの人ですか？」

「フィラデルフィアです」

「いや、つまりどこの国の人なんですか？」

「彼はアメリカのフィラデルフィアで生まれたアメリカ人で、アフリカ系です。」と答えましたが、言 の障壁でもあるのかと思っていました。その 、マスジドの白人女性の大半は、アラブ人男性と 婚していることを知りました。

彼女たちは一 に「ふうん」と言い、その くるしい目を伏せました。

「あなたはムスリムになろうと思っているの？」の一人が、期待を膨らませたな表情でこう言いました。

「いいえ、私はユダヤ教徒なんです」と私は言いましたが、そのときの彼女たちの表情を せてやりたいです。彼女たちは出来るだけ丁 に、かつ速やかに を えました。

「あなたのお子さんたちはムスリムなの？」と の一人が を けました。

「いいえ、私には子供がいないの」と言ってしまうと、彼女らによる私との共通事 を 探ろうとする みは失 に わりました。彼女らは笑 を せると、予期していなかった信じられないことが起きました。彼女たちはアラビア で会 を 始めたのです。

私はその に座り けていました。彼女たちは殆どアラビア で し、私は笑 を けました。他の女性たちがテ ブルに加わり始めると、彼女らは私を「彼女はシャロン。ユダヤ教徒よ」と英 で 介し、アラビア の会 に りました。

演会が始まると、女性たちは礼 堂に集まり、豪 なカ ペットに腰をおろしました。しかし5分もすると、女性たちは会 を 始め、上のスピ カ から こえてくる 演者の声をかき消してしまいました。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/618>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。